

平成21年度 財団法人山形県体育協会表彰 受賞者一覧

平成21年度 功 勞 賞 受 賞 者

(市町村体育協会推薦)

番号	氏 名	ス ポ ー ツ 関 係 歴	推薦団体	推 薦 理 由
1	いたがき としみつ 板垣 歳光	平成11年6月～14年6月 山形市体育協会 理事長 平成14年6月～21年5月 山形市体育協会 専務理事兼事務局長	山形市 体育協会	山形市体育協会の理事長を3年、専務理事兼事務局長を7年務め、山形市並びに山形県の体育・スポーツの普及と振興に尽力された。特に、平成14年の財団化にあたり、組織の強化と運営に対する貢献は大である。また、県体育協会総合型地域スポーツクラブの育成委員として、山形市におけるクラブの創設や育成に関わった。
2	やわた きよし 八幡 喜代志	昭和60年4月～平成5年3月 田川地区剣道連盟 事務局長 平成元年4月～5年3月 山形県剣道連盟 評議員 平成元年5月～11年4月 鶴岡市体育協会 常任理事 平成11年5月～21年4月 鶴岡市体育協会 副理事長	鶴岡市 体育協会	平成元年から鶴岡市体育協会の常任理事として、地域スポーツの振興並びに競技力向上に尽力された。平成11年からは10年間にわたり、副理事長として理事長を補佐し、鶴岡市体育協会の円滑な運営に貢献した。また、昭和58年より剣道スポーツ少年団の指導者・代表者として、青少年の健全育成にも力を発揮している。

(競技団体推薦)

番号	氏 名	ス ポ ー ツ 関 係 歴	推薦団体	推 薦 理 由
3	くろい しげはる 黒井 重治	昭和58年7月～平成2年6月 山形県スケート連盟 理事 平成2年7月～20年6月 山形県スケート連盟 会長 平成20年7月～現在 山形県スケート連盟 顧問 平成18年7月～現在 日本スケート連盟 監事	山形県 スケート連盟	昭和58年県スケート連盟理事に就任、平成2年に会長に就任し、平成4年の「べにばな国体」スケート競技の成功と、以降のスケート競技の普及・選手育成・競技力向上のため尽力された。平成18年にはSO日本冬季ナショナルゲーム山形の開催において、スケート競技コミッショナーとして競技を成功に導くなど、18年間にわたり、永年会長として連盟を導いた。また、平成18年からは、日本スケート連盟の監事としての重責を果たし、その功績は高く評価されている。
4	さとう まつべい 佐藤 松兵衛	昭和56年4月～62年3月 山形県水泳連盟 理事 昭和62年4月～平成21年3月 山形県水泳連盟常任理事兼総務委員長 平成21年4月～現在 山形県水泳連盟副会長兼総務委員長	山形県 水泳連盟	昭和56年理事に就任、昭和62年総務委員長に就任。以降、20有余年にわたり県水泳連盟の財務全般の基盤確立に尽力された。総務委員長就任時、べにばな国体をひかえ強化が叫ばれている折、本連盟として財政基盤の確立が必須であった中で尽力。その後も強化費削減に対応し、独自の財源確保を確立して現在に至っている。
5	おやま ひろし 小山 寛	昭和62年4月～現在 山形陸上競技協会 常任理事 昭和62年4月～平成7年3月 山形陸上競技協会 総務副部長 平成7年4月～11年3月 山形陸上競技協会 総務部長 平成11年4月～15年3月 山形陸上競技協会 総務委員長 平成15年4月～現在 山形陸上競技協会 副理事長	山形陸上 競技協会	県陸上競技協会の常任理事として24年にわたり、平成4年べにばな国体、平成10年全日本中学陸上、平成20年全日本事業団陸上、平成21年度東日本実業団陸上などの全国大会をはじめ、県選手権、国体予選などの県内主要大会の競技運営・企画に指導役として努めた。特に、べにばな国体に向けた準備として県身障者スポーツ大会の協力体制、陸上競技大会運営の情報処理化、陸上競技場施設整備など協会の広範の分野において総括し、主導的立場から運営に尽力した。
6	まるかわ のぶひろ 丸川 信浩	昭和63年4月～ 山形県バレーボール協会 理事 平成6年4月～15年3月 山形県バレーボール協会 常任理事 平成15年4月～現在 山形県バレーボール協会 副会長 長井地区バレーボール協会 会長	山形県 バレーボール 協会	昭和42年より高校チームの監督として高校バレーの指導にあたる一方、公認審判員として活動し本県バレーボールの技術力向上に努めた。昭和63年からは県バレーボール協会の理事・常任理事を歴任し、平成15年からは県協会副会長・長井地区協会会長として本県バレーボールの競技力向上・振興発展に寄与した。
7	ほんま しげよし 本間 茂芳	平成7年4月～21年3月 山形県バスケットボール協会 副会長 平成7年4月～21年3月 酒田バスケットボール協会 会長	山形県 バスケットボール 協会	平成7年度から20年度までの14年間にわたり、県バスケットボール協会副会長として運営に携わった。中でも、平成7年「第25回東北中学校バスケットボール大会」、平成8年「第30回日本リーグ女子酒田大会」、平成19年「第62回東北男女総合バスケットボール選手権大会」を酒田地区に積極的に招致し、競技拡大に努められた。また、酒田地区においては10年前より「中学生バスケットボール教室」を独自に開催し、競技の普及・強化を図り、数多くのジュニアオールスター県選抜チーム選手を輩出するなど、その功績は誠に大きい。

番号	氏名	スポーツ関係歴	推薦団体	推薦理由
8	すがい よしのぶ 菅井 善信	昭和51年4月～平成3年3月 山形県ウエイトリフティング協会評議員 昭和60年4月～平成3年3月 山形県ウエイトリフティング協会審判部 平成3年4月～15年3月 山形県ウエイトリフティング協会理事 平成15年4月～現在 山形県ウエイトリフティング協会副会長	山形県 ウエイトリフティング 協会	県立庄内農業高校重量拳部創部時の選手として活躍後、母校外部コーチとして数々の全国入賞選手の育成のみならず、県内選手強化に力を注いだ。また、東北・全国大会の県代表審判として参加し、その技術を県内審判員に広めた。特に、選手強化や審判員の技術指導への貢献は、競技力向上に顕著に表れており他の模範である。
9	みうら しげのり 三浦 繁則	昭和63年4月～平成18年3月 山形県卓球協会理事・常任理事 平成18年4月～現在 山形県卓球協会 副会長 平成2年4月～8年3月 山形県高体連卓球専門部委員長 平成18年4月～20年3月 山形県高体連卓球専門部部長	山形県 卓球協会	県卓球協会役員として永年にわたり協会発展に寄与し、勝負に対する情熱と人柄が多く役員及び会員に認められ、信頼は大である。また、平成2～7年度まで、県高体連卓球専門部委員長として県内の先生方をまとめられ、平成3年に全国高校選抜卓球大会を本県長井市で開催し成功裏に導いた。特に、平成4年のべにばな国体においては、その手腕を発揮され卓球競技総合優勝に大きく貢献した。また、平成20年度には第53回全国教職員卓球選手権大会を天童市で開催し、県教職員卓球連盟副会長として大会成功に導いた。
10	わたなべ こういち 渡辺 孝一	平成9年4月～21年3月 山形県野球連盟 事務局長	山形県 野球連盟	長年にわたり、山形県野球連盟の発展並びに県球界の人材育成に取り組み、本県野球界の発展に寄与された。また、平成9年から12年間にわたり事務局長として県球界を牽引した。特に、トップアスリートの育成に貢献し、本県チームの全日本軟式野球大会上位定着、ジュニア層の育成に寄与された功績は大いである。
11	はたけやま しげゆき 畠山 重行	昭和45年4月～60年3月 山形県柔道連盟 強化副委員長 昭和51年4月～60年3月 山形県柔道連盟 普及委員長 県高体連柔道専門部理事 平成14年4月～16年3月 山形県柔道連盟 副会長 東北高体連柔道専門部長 県高体連専門部長 平成16年4月～現在 山形県柔道連盟 広報委員長	山形県 柔道連盟	県柔道連盟の要職を長年務め、柔道の振興・発展に貢献された。特に、高校教員として中学校・高校の柔道の競技力向上に貢献した。中学校の強化にあたってはコバルト杯争奪中学校大会を企画立案し、全国トップの国土館中学校を招聘して第21回大会を実施した。近年は広報委員長として、報道関係への情報提供や県柔道連盟活動の全国への発信等に努めている。
12	ちくだて えいき 築達 栄喜	平成元年4月～7年3月 山形県柔道連盟 事務局長 平成7年4月～17年3月 山形県柔道連盟事務局長兼副理事長 平成17年4月～21年3月 山形県柔道連盟 理事長 平成21年4月～現在 山形県柔道連盟 参与 平成17年4月～現在 全日本柔道連盟参与・東北柔道連盟参与	山形県 柔道連盟	柔道競技の振興・発展及び県柔道連盟の組織の充実や財務の確立に大きく寄与された。特に、在任中東北総体16連勝達成の影の立役者となり、県柔道界の競技力向上や柔道の普及・振興に大きく功労された。
13	ぬのかわ ひろゆき 布川 裕行	昭和57年4月～平成8年3月 山形県ソフトボール協会 理事 平成2年4月～5年3月 山形県ソフトボール協会 事務局長 平成8年4月～17年12月 山形県ソフトボール協会 副理事長 平成18年1月～現在 山形県ソフトボール協会 常務理事 昭和62年4月～平成2年3月 県高体連ソフトボール専門部委員長	山形県 ソフトボール 協会	昭和50年から本県高校の部活動顧問(監督)として指導にあたられ、競技力向上に尽力されるとともに、昭和54年以降、審判員・記録員としても活躍され、昭和62年には記録委員長として指導的役割を果たされた。また、平成4年には事務局長としてべにばな国体を成功に導かれるとともに、本会役員として運営・育成に精励され、本県ソフトボール競技の普及と振興に寄与された功績は誠に顕著である。
14	よこやま まさし 横山 正	昭和52年4月～54年3月 鶴岡バドミントン協会 理事 昭和54年4月～平成元年3月 鶴岡バドミントン協会 理事長 平成元年4月～現在 鶴岡バドミントン協会 副会長 昭和63年4月～平成7年3月 鶴岡市体育協会 常任理事 平成7年4月～17年3月 山形県バドミントン協会強化委員長 平成17年4月～21年3月 山形県バドミントン協会 副理事長 平成21年4月～現在 山形県バドミントン協会 参与 平成11年4月～現在 山形県教職員バドミントン連盟理事長	山形県 バドミントン 協会	永年にわたり、鶴岡バドミントン協会において役員を歴任され、ジュニアから中・高・社会人等の広き年代層の普及・強化に尽力された。また、県バドミントン協会の強化委員長・副理事長・参与を歴任され、バドミントン競技の普及・振興に多大な貢献をされた。特に、県・地区の役員を兼ねながら高校生の指導・強化に取り組み、優秀な選手を長年にわたって育成し、競技強化に多大な業績を挙げられた功績は顕著である。
15	わたなべ よしひこ 渡部 嘉彦	昭和60年4月～現在 置賜地区剣道連盟 常任理事 昭和63年4月～平成19年4月 山形県剣道連盟 評議員・審議員 平成10年5月～16年4月 米沢市剣道連盟 副会長 平成16年5月～現在 米沢市剣道連盟 会長	山形県 剣道連盟	永年にわたり、置賜地区剣道連盟において常任理事として斯道の発展に大きく寄与されるとともに、県剣道連盟においても評議員・審議員を務め、連盟の発展に尽力された。氏は、戦後の剣道復活と同時に祖父、父より指導を受けて剣道を始め、現在教士七段。生涯剣道をモットーに日々研鑽する傍ら、剣道指導を通し多くの青少年の健全育成に大きく貢献するとともに、県、地区、地域の剣道の普及・振興に多大な業績を挙げ、その功績は顕著である。

平成21年度 感謝状受賞者

(市町村体育協会推薦)

番号	氏名	スポーツ関係歴	推薦団体	推薦理由
1	さとう なおあきら 佐藤 直明	平成15年4月～21年3月 大江町体育協会 会長	大江町 体育協会	3期6年間にわたり、大江町体育協会会長を務められ、地域スポーツの振興と普及、強化に努められた。町体育協会主催事業である町縦断駅伝大会から、地区駅伝や県縦断駅伝に出場する選手を多く輩出し、平成16年には地区駅伝で見事優勝を成し遂げた。

平成21年度 ライオンズスポーツ賞受賞者

(競技団体推薦)

番号	氏名	スポーツ関係歴	推薦団体	推薦理由
1	つばき ひろし 椿 央	平成20年度 国民体育大会スピードスケート競技 少年男子5000m 優勝 (森永一帆) 平成21年度 国民体育大会スピードスケート競技 少年男子1000・1500m 優勝 (小田卓朗)	山形県 スケート連盟	県スケート連盟副理事長兼強化部長並びに県立山形中央高校スケート部監督として、長年にわたり選手強化に尽力されている。バンクーバー冬季五輪において銅メダルを獲得した加藤条治を指導した以降も、彼に続く選手の強化・育成に力を注いでいる。県スピードスケート界の競技力向上への道を大きく開拓し続けている功績は顕著である。特に、今年度の国民体育大会における小田卓朗の2種目優勝は、2年生ながら加藤条治も成し得なかった快挙である。
2	きむら じゅんいち 木村 潤一	平成18年度 第29回全国JOCジュニアオリンピックカップ 春季水球競技大会 中学女子 優勝 平成19年度 第30回全国JOCジュニアオリンピックカップ 夏季水球競技大会 中学男子 優勝 第30回全国JOCジュニアオリンピックカップ 春季水球競技大会 中学男子 優勝	山形県 水泳連盟	べにばな国体以来、ジュニア層(主として小学生～中学生)の指導に携わり、度々の全国優勝を果たした。山形水球クラブはそれぞれの年齢区分において、常に全国トップチームとして戦っており、ジュニア層の育成・強化は、その卓越した指導力と情熱によるところが大である。
3	きむら ふみひろ 木村 文浩	平成20年度 全国高等学校総合体育大会カヌー競技大会FK-4 200・500m 優勝 (白田あさみ、有川千鶴、田宮双葉、鏡扶美) 国民体育大会カヌー競技 少年男子K-1 200m 優勝 (安達祐太) 平成21年度 全国高等学校総合体育大会カヌー競技大会 K-4 500m 優勝 (櫻田拳至、横翔、阿部輝、矢作淳史) 全国高等学校総合体育大会カヌー競技大会 FK	山形県 カヌー協会	氏は、20年以上カヌー指導に関わり、多くの選手を全国優勝に導いた。近代的なトレーニングに、現役選手時代から培った精神面の指導を取り入れた独自の指導法を確立し、現在に至っている。氏の日々の研鑽は他の模範であり、例年の全国優勝や入賞実績をみるに、県スポーツ界への貢献は大であり、賞に充分すぎるほど値する。
4	やまだ かがり 山田 かがり	平成20年度 第41回全日本実業団バスケットボール競技大会 優勝 第4回全日本社会人バスケットボール選手権大会 優勝 高松宮記念杯第41回全日本実業団バスケットボール選手権大会 優勝 平成21年度 第64回国民体育大会バスケットボール競技 県成年女子優勝 第5回全日本社会人バスケットボール選手権大会 優勝 高松宮記念杯第42回全日本実業団バスケットボール選手権大会 優勝	山形県 バスケットボール 協会	平成20年から山形銀行女子バスケットボール部ライヤーズのヘッドコーチに就任し、一年目にして全日本実業団及び社会人大会で優勝3冠を成し遂げた。今年度も2冠を達成し、更に国民体育大会において県成年女子チームの監督を務め優勝に導いた。山形大学及び市立商業高校との合同練習も行っており、山大的インカレ連続ベスト8、商業高校のウィンターカップ連続ベスト4入賞に大きく貢献している。また、小中学生を対象としたクリニックも数多く開催し、山形県のバスケットボールの普及活動と競技力向上にも積極的に取り組んでいる。

平成21年度 特別賞受賞者

氏名	受賞事項	推薦理由
かとう じょうじ 加藤 条治	バンクーバー冬季五輪 スピードスケート男子500m 銅メダル	冬季オリンピックにおいて、山形県出身選手で初めてメダルを獲得するという大偉業を成し遂げ、県民に夢と感動を与えてくれた。山形県の力を広く世界に発信することができ、山形県スポーツ界の発展に大きく貢献してくれた。